

自立訓練部利用者の野外訓練実施報告

自立訓練部 輪竹 一義

去る7月28日（水）に「国営昭和記念公園 バーベキューガーデン」とセンター野球場バックネット裏の2つに分けて、自立訓練利用者（視覚障害、肢体不自由、高次脳機能障害）の野外訓練を実施しました。2つのグループに分けた理由は、記録的な猛暑が続く中での屋外作業のため、体温調節が難しい頸髄損傷者をはじめ利用者の体調管理に配慮し、急遽、当初の計画を大きく変更せざるを得なくなったためです。また、全体のスケジュールにおいても、時間を短縮する形で実施することとなりました。昭和記念公園グループは、利用者21名（視覚障害9名、高次脳機能障害12名）が、センターグループは、利用者8名（頸髄損傷）が参加しました。

この野外訓練は、視覚障害者や肢体不自由者を対象とする機能訓練と高次脳機能障害者を対象とする生活訓練のそれぞれの自立訓練利用者の皆さんが一緒になり、事前準備で役割分担を決めながら相互理解を深めるとともに、当日はバーベキューを通じて交流を深め、リフレッシュすることを目的に毎年実施しています。5月初旬から野外訓練の場所や内容の検討を始め、6月下旬にホームルームを通して利用者に対する説明会を行い、7月から毎週水曜に利用者全員が学習室に集まり、職員と協力しながら役割分担など当日に向けた準備を進めてきました。

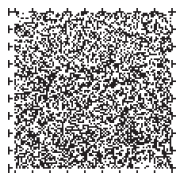
昭和記念公園グループは、道中、バス内で利用者と職員が自己紹介をするなどして、全員が一緒になって楽しむことができました。昭和記念公園の駐車

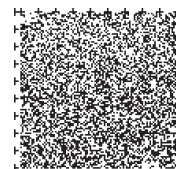
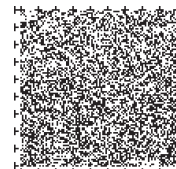
場に到着してからは、目標のバーベキューガーデンまで強い日差しを避けるため、木陰を選びながら徒歩で15分程かけて移動しました。移動については、みなさんからは思ったほど疲労の訴えも聞かれず一安心でした。バーベキュー会場ではテントの日陰に入り、季節の野菜や牛肉、豚肉を鉄板で焼きました。また、生麺を調理した焼きそばも好評でした。みなさんお腹一杯になるまで食べることができ、屋外でのバーベキューの醍醐味を堪能することができました。公園内は、猛暑日だった割には幸いほどよく風も通り、テントの日陰もあって暑さが少し和らいだ感がありました。

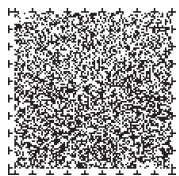
センターグループでは、最初は外に出ることに消極的だった頸損利用者も、グラウンド横の木陰が意外と涼しく、炭火焼きバーベキューに舌鼓を打ちました。普段とは違う屋外での食事は開放感があり、とても楽しいひとときとなりました。

結果として、今年は猛暑の影響で、利用者の皆さんが話し合っただけで企画した内容をそのまま実行することはできませんでしたが、体調を崩す利用者もなく無事に終えることができたこと、猛暑がかえって利用者と職員の協力を深めたことは有意義だったと思います。

来年度以降の反省点としては、全員が一緒に参加できるよう、実施時期や場所を吟味しながら準備を進めたいと思います。







野外訓練を終えて（就労移行支援）

総合相談支援部総合支援課

水村 慎也

7月22日（木）～23日（金）、山梨県にある東京YMCA山中湖センターにて、就労移行支援利用者を対象に野外訓練を実施しました。この野外訓練は、「日頃の生活・訓練場面とは異なる自然環境における野外活動を通して、利用者の自主性と協調性を養い、心身の健康の増進やリフレッシュを図る」ことを目的とし、利用者40名、職員等23名の計63名が参加しました。

東京YMCA山中湖センターは、山中湖のほとりにあり、富士山と豊かな自然に囲まれたキャンプ場です。今年は雨が多かったせいか、湖の水かさも増しましたが、幸いにも晴天に恵まれ、無事に予定通り進めることができました。

当日は、センターからバス2台で出発しました。途中の談合坂SAでは、早速お土産を買う方もいましたが、皆、野外訓練に対する期待で胸をふくらませていました。早朝からトラックで荷物を運んだ先発隊の職員達は、例年に無い猛暑のなか、汗びっしょりになりながら事前準備をしてきていました。

1日目の夕食は自炊で、メニューはカレーとサラダです。食事班が内容を検討し、話し合いを重ねて決定しました。当日は、グループ毎に分かれて調理を行いましたが、薪で火を熾す名人技を披露する方もいれば、灰汁とりに執念を燃やす方もおり、班毎の特色が表れた夕食でした。このように野外訓練では、普段の訓練や生活場面では見ることができない利用者・職員的一面を見ることができます。皆で協力して食事を作ることは、野外訓練の醍醐味の一つです。

夕食後はキャンプファイヤーです。グループ毎に分かれて、ジェスチャーゲームや○×クイズを行いました。この野外訓練には、視覚障害、肢体不自由、聴覚障害、高次脳機能障害など

様々な障害のある方が参加しています。キャンプファイヤー係は、皆にわかりやすく楽しめるための議論を重ね、ゲームの質問内容をスクリーンに写し出すなどの工夫をしました。このような準備が功を奏し、キャンプファイヤーを囲みながらのゲームは盛り上がりを見せ、特にジェスチャーゲームでは、「マイケルジャクソンが将棋をしている」というお題に対して、珍回答が続出しました。皆のユーモアあふれる身振りもあり、大盛況となりました。

キャンプファイヤー終了後、キャビンでは談笑の音が途絶えませんでした。普段とは異なるシチュエーションの中で、利用者同士、また、職員と利用者が談話を楽しむことができるのも1泊2日の野外訓練だからかもしれません。

2日目のレクリエーションは、フリスビー大会を行い、その後は山中湖でボートに乗りました。フリスビーはチームに分かれ、的に入れた得点で勝敗を争いました。的は広げた傘なので大きくは見えますが、実際やってみると苦戦を強いられる方がたくさんいました。見事に的に入った時は、皆で拍手するなどチームの枠を超えて楽しんでいました。また、雄大な富士山を眺めながらのボートは、とても思い出に残る貴重な経験になりました。水着になって、湖に浸かりながらサポートする気合いたっぷりの職員もおりました。

終了後のアンケートでは、全ての項目で「満足」と返答した方がたくさんおられました。また、「普段話せない人と話したり、意外な才能など、たくさんの発見や経験ができた」といった意見もありました。こうした結果となりましたのも、利用者、職員が準備の段階から協力して進めることができた結果の賜物だと思います。ご協力いただいた各部署の職員の皆様に改めて感謝し、お礼を申し上げます。

